壬寅雜記 一

勿中庵

天明二壬寅載

試筆

このとしまつかわ五尺ゆるめて花見月　あすか庵

守歳

菜を芋を庵の手作りの暮

歳旦

題　一幅　一貫　一盃　一信

一向　一瓶　一同

長頂八一幅もよし　福寿草　餅餅

一貫の先　貫わらわ　雛子　石芝

屠蘇　酒　盃の　福の花　千泉

酒瓶の又一信わらの　酒瓶　百花

来角つわ一向待　来たり　資山

萬年千代の根ノわの花　蔦蕾

移まゝ福寿草　ゆわ明寿寿　かゝ

一歩 一蘆 一番 一分

一夏 一部 一蘆

一まとき瀧を写す福寿小　花天

宗寿先師より明寿寿　柏綿

一番の宮ひ初を書かく寿寿　百度　日

一万いまし蘆ちしてす　花明

氷踏むのを一夏の寿花　帰花

あ〳〵寿月の寿の日一部冥き久り　嘉庸

萬寿の是一蘆三河より　太蘆

一色一順一流一面

一口一里一騎

一すゝ寿寿寿寿寿寿小判　蘭陵

大ふくの一杯百寿寿寿　秀晋

一流の沙乳の宮ひの松寿　草光

海山を一周ちゝ四寿乃夷　烏更

寿寿の月寿寿〻宮一（イモ アラト）口　海雅

一里を越えゝ寿寿月寿寿橋　傘車

寿ゝ初を寿寿月寿一騎　海山

題　一疋一張一本一冊
一束一行一帖

一疋　牛の千門の白黒の素　窪之
言ふ子の毛一張　婚し　帷子　瓢仙
一疋　かもと　斜　袴の　寿帳　栢子
手〳〵の一冊つゝの　寿帳　羽山
やし玉の宝の山の一束　袴　京花
さ羅〳〵と一行　物の　ものゝ　波筆
一枕　子　試ん　古法　帖　開二

一曲　一疋　一種一帖
一駄　一雙　一軸

門松の一目を見へぬの曲　左右
明の月の山乃宮ひと　松之
真の子の草山　種　仙里
一肺の杉　付の　霞　石牛
手玉の一駄の腹の左折　青佐
桶二ツ　玉　一雙の　つ日より　玄白
花のさゝ日を春ゝ見へ　暦　羅の

題　一羽一艘一湾一會

一歌　一財　一挺

一羽ゝ千ゝの翁わたつの皇　水石文江

多紀わ一艘つゝる永吉郎　長布

三保のまゝ一湾東ゝ　宝雅

形ゝ一會ゝわゝ翁し　徐三

屠蘇ゝ一献源氏屠蘇　留桂

手礼わ一財つの佳おい　吉仙

抽ゝ一張ゝわゝ　巴井

一體　一流　一膳　一色

一家　一見　一座

翁ゝ日の一體わゝ　雁字

一流ゝ多ゝ多事ゝ　義郎

歯固わゝ一猪ゝ　杉叙

一色ゝ常盤家風　呂桂

一家内ゝ色ゝ　兎園

二見ゝ浦ゝ見湾　松雨

一座ゝ宴式わゝ　如岡

題一門一座一座一懸

一雪一雪一蓼

朝の日雪一座高し　福引き　竹亭

福引わたし長年一座衆　潮花

花の矢雪炭一俵わ福茶の湯　寛志

角のもしわ初夢の一番　激石

萬歳わ紙一雪ち暑あり　画杉

一蓼の雪ちを運わちり暦　友郎

伺の門を出ん年賀わ松の雪　秋雅

一式一品一座一連

一流一枝一郷

めでたさの皆一式わやし男　我后

一座雪ち花ち一座福寿草　暮蝶

一座ちとなるもよし暦　徐杉

年神ち一連　婿しちの詰　祇中

氷わ涙雪ちおち涙　湄南

雪ちしわ一枝つち蓼ちり　東李

一郷を花の雪運わ明の表　神光

題　一箱一斎一冊一歌

一旦一意一階

一輪いろの梅の香（ハルノカ）せし　淮路

雪の梅ひとりあり日のちり　文江

一節のそしをもて千冊の雪ちり　花英

ちりの梅一輪の朝霞　里梅

一雪命月の妻ちり月よりも　泰里

一意のうの音早しちる雪　鶏間

梅白一階昇るちり日影　青郎

一年一月一日一巻

一切一言一輪

ちりをもしちり暦　春香

墨色一日の玉乃妻　雪華

掃除の梅の家ちと日　玉英

清水の一意耳ちさんちり　意耳

新玉の一切命生家の元利　南打

宇治川寒水を一言の梅の湯　義松

暖かる日を一輪の花ちり　五嶺

題　一腰　一刻　一炬　一株

一言　一朝　一園

一稼ぐに追ひつく貧乏暇なし　蟻則

一年の價は春の雨日より　相原

相手も出ず一切わたくしの事　里繁

一株の梅をのす霞の海の出　暗泉

一言を茶園花の香慶の宗　夾竹

一朝霧白し滿ちる屠蘇酒　巴流

一面の豊作園の花の蕊　斗南

一枝　一歩　一段　一度

一事　一軒　一園

一株を留まる活くる乃東　波静

書物は一歩の記も子も孫も　板史

蕚葉は一色つゝ変書世の　三樂

元日は新年一度の記憶し　京花

正月は一事さわやかの雨り　林尾

一軒を外乃影ちゝ松の雪　星風

一園の古木の蕚は明の事　止翁

題　一輌一間一百一天
一童一板　一流

一輌の新わらぶき　百童
○杖影乃一間くわらの日の出　山巳
簑笠ちらす雨　雫　狗　昊泳
一天霧の見さしぬらの野　露船
遠雨ちる霧に一童　白狗日影　素練
一板の間ちらすの鶴寿　花乞
霧ちらす皆一流ちらす雪　狗　巳草

ちらす
○雨安き物をむすぶ川　朝解
かも見るの水捨ちらす椿の先　柳景
洞ちらす見ちらす人に使ちる　石芝
雄の引ちる鶴に鶴ちる雪　蕙斎
一筋に流一筋に雪下　千泉
捨ちらす赤に多ちる春乃屋　秋野
天鶴の雪の影乃ちる　百花
庵ちる板を投ぬる雪下　かし

春興

うらうらすわ寛永寺を志めりい　荒天
梅の香を敲き出す園の門　梅線
雪を洗く春の梅の蕾の芽　澤魚
ちらちらわ明風の翠の日の光　帚玉
雲乃面へ浪乃屋面の蒼蛍烟　虹川
鹿を聚の蕾い低し藤の葉　如爽
山乃春雪の夜の蕾　近丁
場春有細雨濃き浪乃砌　谷子

波静　波静を非い濁りまたり紙月
春丈　川音い波を中ゆ雲雲の雲
三樂　蕾蕾の春の雄子の水きれ
巽線　一色を掬い海頃の春の芽
雲舟　梅さくわ波千里さの雲雲
山呂　春屋記ゆ屋野一春山雲春
素練　雲ゆ雲わ牛雲中ゆ雲一長堤
百童　梅ゆ春わ二月春月ゆ濃い海

うくひすや流はまちく松の枝　京花
紅梅や高早咲き枝高　竹尾
はしりたの有高き蕨の拳　傘東
雪の裏へ明の石くやきき　星仏
や、咲し梅の香まちの屋　花牛
イ色へイむしん人わたは活月　柳枝
雪の宮の斬り活雪の雪ド　周白
うき雪の中の加を雪ま梅花　五山頭
雪む日の蘆へ〳〵の時より　花子

雪の中の音を谷雪の花　蘭陵
紅梅の梅へ是ち雪梅の花　秀香
雪ちゝ雪花雪ち雪花を雪ち　草光
よく草雪へし雪梅の口雪へ　雞間
下秋の沼草履ち雪の口雪ち　烏更
ゆへ雪ちし雪見雪ち雪雪　滴雅
はま高くハ蜂も花ち雪ち　資山
指折きハ春年さし雪梅了ち　陣山

寄そしすわ
春宵きく
蛙鶯　白
吉池庵吐花

春の自ら

松窠庵連

先雁の白きと見きりつ水橋　雪後
先夫乃動き物一番雲霞　糸厨
ほつ雪と幹ゑ蒼ゑ人めの花　了花
月を日を分入る枝ゑ梅の実　義松
白魚ゑ女夫アと蒸すうしゑ網　雲船
うそしすわ関ゑ蒸ちゑ蒸ゑ馬　肥し
雲の嘯ゑ樹の芽出しゑも　澤屋
夷菊ゑ雲ゑ糸ゑ蒸ゑ蒸蓋　畔路

苔くさる塀の古屋の梅花　白梅
こゝ今くさつぬ其わかめの花　辛青

神田連

さつともと咲給ふ赤の白　青郊
苅きいつ又聖菊の表窓草　屋外
一ハ所ハまさ咲ひ青き赤うな　庭屋
梅の色と借つよ咲ふ義椿　清耳
思ふ又書ひの菫ひの梅花　松庵
ふひすの餅入の猪口の小鏡　吳岸嶋　古佳

留池連

竹屋の法ハ業と咲ふ花ふ　仙泉
仮橋を把屋ふ多赤　三巴
花鳥の小ふ屋ハ白ふ咲ふ毛　松麦
花屋の表ハ表ハ有ふ有ふ　末白
清水ふ湯屋ふ多ハ砂塩の表ふ　朶物
花の表ハ咲ふ表ハ　惟一
岩角ふ見ふ咲する屋有ハ　等水

梅さくや猫背に藤の上　紫我

小風をまとひ梅の白しぶき　玉蕉

あちらまい人をまねきて来る　沖蕉

軒へ来てうるし窓まれる立春哉　巻耳

春畑のいつこの方青まさる　旦中

春雪

梅さくや御所の雪ひも屋敷の外　胡白

持ち移ひの蕎麦入る椿下　里翠

畑の影きん吟雪の中　陸象

むし窓をうつ咲くを見をり松茸　乗橋

芭蕉を思ふ梅の花　巳流

歳旦　本町時雨庵連

すのこ冷土あるる梅日和　和水

雪の蕎入も雪の雪の雪　〃

松風を聞くこの中の春　牧牛

寝梅ふ所の青むの夫の白　〃

起くの日を見し給潮老　湄玉

梅さくらわかなを摘し其の俤
輝くや海一面なる日の出　宗楷
白魚の動きハ魚とまぎるる
いくとても晴れの御代のたのしさが　玄峯
春雨ふる二度の狂歌梅花　和交
ながめよしと伴鶴のまぎれ雪の夜
棟にこの梅見せる音あるかな霊
鶯の囀を聞の表　芦雀
梅の香ふく春風　芦雀

柳引一ぱいを豊の今朝の春　如水
堀端を一枝梅の白しのぶ　〃
書初の硯の海も梅の影　和屋
梅の香を引伸しまの春の風　〃
陸信の長屋もよし梅の香　仙石
ゆるやかに礼者ぶりの春の　〃
年賀客の二羽の雉の春　志賀

もち屋

御ぞうに雪今年を蓋乃事三ぐ　亀文

[illegible]田廊借つて小商ひ　茶珠
家々あり都たちまつの家　信州
[illegible]堀の外い小路の家　烟
[illegible]の屋敷を[illegible]　乙河
[illegible]ひまの[illegible]　左麦
[illegible]梅さいた日の氷　茶京
[illegible]の[illegible]　楼堤
[illegible]の[illegible]月　白烟
[illegible]軒[illegible]乃家　彩深
[illegible]を[illegible]柳[illegible]　乙

他邦仕至来

[illegible]の　遠州岡田

[illegible]　木雁
[illegible]　サイ川鯉紙
[illegible]　かやく蘭紙
[illegible]　松一まる兎白
[illegible]　川井湯明
[illegible]　暮三
[illegible]　北雲

梅の色に群れて咲く花の中に
葉の花の中に咲きまさる書屋
川邊を見渡す梅の木

中泉　梅二
川袋　草牛
金谷　竹浪

、

うぐひすの鳴を誘ふ新しい都の
俗塵の世を乃梅の
咲うぐひすの鳴を梅の影

常住庵連

治源
市古
池流

一色の梅の花の
葉の葉の梅の花

青洲
蘭渓

蕾のうぐひすの鳴よりも梅の志
梅のうぐひすの鳴の義の色
うぐひすの花の蕾の内
見出すの見のうぐひすの朝霞
もり小の霞の梅の色

東川
山花
素人
文指
文江

、水北連

床の梅の香ばしき白梅
かすかに咲く梅の
梅をもつき梅の棒の

清水
几董
南里

[illegible]の白[illegible]旭わ[illegible]知の[illegible]　地江
[illegible]月わ[illegible]の味　味尽
[illegible]月深き堀の内　自好

、水戸下町連

、栖人[illegible]遠[illegible]　南畝
[illegible]の[illegible]と[illegible]見[illegible]の[illegible]　芝丁
[illegible]わ[illegible]雪[illegible]の色　山色
[illegible]すわ[illegible]の[illegible]　至亭

、飯高三瓢庵連

[illegible]塔ぬ階[illegible]月わ[illegible]　少補
[illegible]わ[illegible]八[illegible]　和夕
[illegible]千[illegible]月の[illegible]　里臺
[illegible]よ[illegible]の[illegible]　女素
[illegible]つ[illegible]月[illegible]小　千代

、小川湖雁庵連

[illegible]　左玉
[illegible]結んで[illegible]　柳之
[illegible]　玉翠

行年八十の二月に柳を
吟ぜ日に長き深き梅の香
梅くさく氷とけ行く夢の香

雅香　廣山　石麦

、鮮田五楽庵連

誰の筆とも霞の法の人めの花
二月の雪つくる春の梅のたち
かも花の香の風に降る法の上
帰連し偽る文の蜂の香
日暮れ玉の法の翁の花

素雅　窪之　新仙　柘子　羽山

、安孫子石廣連

梅の香の雪の里の里の花
長閑さの如く法の雪の中
あの雲のちぎれもなく桃月
用のちぎれの法の梅の花
梅さくの雪の法の梅の花
鶯の鳴く屋敷の梅の法
鶯の鳴く梅の法の雪の法

蕊子　清楚　卉木　五庵　小車　清山　椎山　園南

石廣の梅の香の雪の法
松下

、潮来指月菴連

[illegible]梅花　一茶坊
青海苔を焼くうら屋の梅花　龍尾
里の宵しより内荷行生の黄菜哉　徐之
[illegible]の里鶯山の小屋鶯　象隣
[illegible]する鶯の声　柯今
雑子の帰り時切濃の紙衣　潤橋
さー帰り山くれの瀧の音　都英
[illegible]あと乃香陶の青き花菜　美郎

うらびすの日南の暮[illegible]中　明遊
指川い京をさ[illegible]帰雁　古仙

、西方巳江庵連

此谷を雑子の谷ハ研[illegible]　呂中
うらびすの[illegible]耳の[illegible]の色　信花
[illegible]　[illegible]
川形の[illegible]の[illegible]　[illegible]源

武州羽生柘瓢庵連

[illegible]の[illegible]梅花　象后

梅さくや細道をくる岸の音　里蟬
時しらぬ梅さく頃の白しぼり　徐杉
梅さくや頭の三月もきのふより　祇中
梅のたちぬ日を一とせに合もとり　東李
梅さくや古の歌日和哉　湖南
花咲を問こそ嬉しき梅の花　文江
池の奥白雪すれんめ哉　泰里
吉井庄を張り梅花　雀子
白のあとと蓑ぬぎあり梅哉　烟子

梅さくや岸の蓑音　里蟬
ひとつ〳〵梅と折て把もとめ　二考
待侍し日和の梅の花　猶史
礼帳もあの下作の梅の花　花英
綿ぬき間いとあの梅哉　淮跡

、忍城下

、
梅草庵一里ばかり一日路　義郎
ぼたい沼来ぬ雲の雨　雁字
ちの高みと蕗の芽梅花　素雨

、忍下明石庵連

梅さくや花を白髪乃麦甲子　武之
芋梅の側の地痛の梅の花　杉叟
まとをそうぬくもり花　呂桂
今もし画て下さる梅哉　兎園
梅の香の内ぬくもり妻戸引開り　巴亮
樊噲まつ高麗の下の高の蔓　巨厚
高麗の小鮒の鮒くさうり　仙甫
白の日も又風の日も梅の香　里栄

のろくと日陰へ出る四時下　尹里
草の芽木瓜の花くさ蕗の香　把菊
吟味の梅とを弁る小鮒の香　同栄
見る人をかうと寒く梅の花　序楽
寒風の梅とを入る柳の香　江左
梅の香の姿見る梅く来る　了良
高く風の色の見く高く来る　沐解
梅とくの霜外に出の日の色　如翁
富士の雪梅の花菊の花　左来

世の人事に橋しい女まゆ蕾淵　画杉
燈籠の屋敷有梅のまゆ　雅市
青葉の中の面の月しるめ　如圓
帳はまし生まぬ先の葉橋　東枝
立ち寄る人の明るき鶴月　琴江
梅ちらの浮の上の浮上雪　蘭村
雪の中の静かの明るの亀　徐夕
草の置く露の御の夜の月　立志
秋水の月長し夜の風　春鶯

一勝の裏表の日つ　川
表の日と泉　文石
持と命を運　柳船
表の月の月　瀬石
曲水の表の表　寛志

山吹の咲の蛙の手　所田義
知るを乃の梅の手鶴月　風東

玉川連

新紙を結ぶ線結ぶ形橋　竹水
瀧壺の水の琴掃部屋前　芳雨

歳旦　人のかのつゝ長かるまい　蓮谷麓月庵連

元日の事誓の松も若の元雪　嘉秋
雑の言ハ一夜の年月の哀　紅梅　東翁
元日の祝ひうめい高き二つ　嘉千
天地のゝ陸の繰り暦　了時　俊
御稽古の先と高き姫の出　上海北僕　眉月
ちゝと出る高く初子小　奥小

春分うゝ初子の初雪　耳巳
門松の千しを乃線紙を湯　松嶺　和小
新しきんゝ高く初子小　肥後国　池柳
大空を廣き初日と来まり　和秀
男の代の初ゝ七ゝ明の美　岩花
年玉ハ高き年ゝ日の出不二　富山
日の初日ハ初の人の花　武蔵国　嘉山
事始の戎代繰り明の美　鷺水
年ゝ高ゝ新ゝ年の美　花蝶

元日和草の緑寿の字し福　　蓬谷　雪石
萬家の名を寝亀や松の実　　丁雪
事千代を松ゆく年の実　　花魚
時しも出る年の福うす　　大路
相生の名所高砂の松蔭内　　錦江
見ゆ梅の見たり福寿草　　琴子
音信を影も見ぬ事福水　　昌水
元日や数多く菜を長袴　　止厚
天の戸の明く新田の実　　梅里

屠蘇の香も明れ初を寿ぎ　　蓮谷　中和

、
雪消の影雪の影　　百合　螺山
日暮を鶴を部を見る人暦　　葉十
初雪の人の寿を明ぎり　　南枝

春風

をゝしい水の人めの花　　杉戸　文魚
屋根く里琴山と共よう　　黒彩
梅さく石山庄の春の人暦　　広文　不及

小雪の梅の蕾の花　里人
思ひ寄すれば象を嗅ぎ苔の蘭　葉十
義八の苔火の白の福寿の　南枝
門くを拭さま敲くし鳥のも　塚山
色の主まき梅の蕾を花巾　素十
梅ゝ色の旅の寒小ゝ和　了徴
寒風連を絵の書の素　素翁
寒の梅を梅の蕾の月　中和
尚を見き小の梅の家の　蘿月庵

梅ゝ色を引き〳〵里人　紀雪
多数ひの置炉高し風巾　松宇
ゝゝひすわまを小雪を　甘風
梅ゝ色を動学の枝小時を　羅二
んめきゝを朝〳〵凍の水漬　京花
口ゝ寒を水ゝ綱の所まく　梅後
学乃義を旅を枕の時を　徐翠
小雪女乃江を青き葉バ　芦帆

紙卅鉢子連

橘むらさきの紐を留まるうれば　渚江
青柳の糸の緒を解り　青草
雪の末くいさぎよく　春草
うぐひすの梅を訪ひ　蟬花
朝風に吹きむしんめの白しぶ　春秋
もの寂や一夜屋の雪の　山路
香を色むる草の小初の梅華　仙枝
碑　醒の雪を碑の表の石　宮之
秋田の白伸　春の梅の雪　汝皇

白風や梅の花の小水　魚東
雪の草の置ものよりんめの雪　魚山

、

宗はまとたち年の宗きよ梅花　沼州大東　楚秋
一雲海の色の弟子雪の　柿、　青佐
菊乃甘の東楼住の春の、　太田　五川
婆ふとも思の梅の間の春のんめのたち　上毛高崎　多江
春の白の屋しら傘を住のり　武蔵文助上　露傘
雪の新の青沈の小、　賊郎

[illegible]
春雲風[illegible]
伊の[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

奥さしよ　奥橋
[illegible]　猪白
[illegible]　[illegible]日吸　菜阜
[illegible]　[illegible]甲州　俄几
[illegible]　[illegible]　磯部　古扇

[illegible]
[illegible]
[illegible]

甲州さし出磯

[illegible]　石井
[illegible]　[illegible]八幡　吐山
[illegible]　魚君

永き昌千　社百社の人[illegible]り　長谷
[illegible]の草の童乃[illegible]ハまとゆす　麦鏞
[illegible]む月の[illegible]ゆ[illegible]す二日月　上栗原　桃白
[illegible]乃芽[illegible]の[illegible]　[illegible]久

甲別　末木
さ[illegible]と風の[illegible]　梅賊
下さ乃の[illegible]　梅磯
[illegible]を[illegible]　梅磯
[illegible]の川[illegible]　[illegible]悦
[illegible]白の[illegible]の[illegible]　机童

色少をおよぼしそめわかぬ中
以ぬ大原の雪とぬれもてる雪の
雪ぬとぬれしの中の梅花
ほくろをぬをぬ雪ぬ根芹が
おつくと鶯ぬ川わたる時日
うくひすぬ一度つぬ日をぬし
四ぬの浦ぬうち出ぬ雪ぬ
梅ぬぬ風ぬしぬ雪ぬ屋の間
庭ぬぬ祝をつぬ梅

南井
東山
京色
書路
ワニ井 書風
書雪
梅明
寛山
蔵仙

梅源
雪舟
杉之原 梅氏
南呂 梅義
彩雲 如雪
如解
綿塚 泰山
如洗
万力 林系

かぬぬ雪ぬ根のぬぬ鶴ぬ
うくひすぬ梅の濃くぬて梅し
紅梅の人ぬぬ鶴日
鶴梅ぬぬ雪ぬ梅の音
音くぬと書のうぬ雪ぬ
雨梅と書きぬ梅の系
鶴くぬ雪の梅ぬ梅の
吹ぬ日ぬ梅ぬ梅の
梅くと風のさくぬ雪ぬ

蕎麥の花　三昌　一古

門松を見越しの梅の花　池酸
鳴くうぐひす付け句　湖村
南無南無と唱へつゝ　鯨口
初鳥の声うら屋敷の梅　高重
霞みそしの白き下蔭か　稲花
あるを眺の名残惜しき事か　積小

書　堀屋氣仙連

梅さきて白しかなしの答へかな　玉鯨
霞む牛兒地蔵の元旦　陸耳　湖村
人めくわ帯ゆるる花の朝　三兒　五態

紀州流山松尾会連

春月わ堤おぼろ花を若みす　松澤
桃さくわ霞んく山すそも　陳流
積雪の消ゆ時一村の路月　青如
菫の花わ日の照よる川向ひ　至長
菫の花の白也ぶまし雲　泉会

手紙を書きつもるまの月　花樹
一たの千さらの碑をて梅ちる　大了

、

春雨や竹の葉を洗ふ事のたち　東冠
梅風の香を吸ふ事時梅ち　魚泉
雲の音の四ツ時ちる日影　冠里
風ちるの多ねの事のたちし　魚越
うぐひすの歩をおまのたつ　春雪
雲の内無の小屋を湯ふし　錦象

事能ケ濱朴庵連

手折中をすいひしい魚を梅ち　白蛾
以つの見ちを安の葉を梅ちる　冨響
うぐひすの内安曲のき義の中　苔川
梅ちる牛潛ちを事のたち　左援
うぐひす事内ちを八宜のよう帰　琴曲
風ちをいい屋のちも見金の梅　毛長
うぐひすの義をつ舞ち初音ち　休又

此世廣詮中舎連

物言の音ちをちる鶯　月　三泉

雲山の日のくれぬれば　明石なる海月
幸隆卿の面の面もかくれぬ月　巳二
紙の衾重い濃く張り　紙月　朗西
青苔の雪流れ　川わたる海月　意樵
小さき二つ動かす　水晶月　青光
青田の中の月　海江
面の暮の暮　巳甘

、宇都宮塚下連

白魚の障子　紙の蔵の音　鬼金

、

梅の香の暗き　くむ宵の門　仙琴
流れ流れ　戻る帝の京　水江
新しき花の咲き　梅花　湄南

常高院連

菖蒲草の根を葬さぬ里人　晩涼
菖蒲草の流れ　長堤　蓋魚
菖蒲草の一むら　つての牧の駒　左文
菖蒲草の旭の早き　雨上り　柳之
菖蒲草の地の水　朝花

松風灘々瓜の露の玉　仙里

晴雨きいたり〳〵松の朝の寸暇　一橋

お生の松吹とちらす露の玉　定庵

をち山の小松と染し露の玉　夕花

、安食天満庵連

遠寒く小かを見る小鮎かな　其白

呼る出る安食一の庄の柚の実　寛小

紙屋松戸編木庵連

うらひさの帝の日の濃る世の奥　拓湾

命毛後の指を伸ル事の如　皐来

雨去命の吹の去命長こしの　松居

むさし野の菊奥吉野の雅の声　松雪

菊の小菊の白ひの表の白　光秀

うらひさの帝日と極の春まち　赤松

答〳〵橋ひまをさし命の芽　嘯世

流もてい又小よる柳の芽　亀城

見せふを見る花の春薫れ　谷之

吹きそいたる人を出す梅か　宗雅

野辺の乙女遠き音をしる絃の琴　一長布

、

武蔵国吉田氏芳庵連

うぐひすの指折りかぞへ来ぬる春　枝子

梅さくわが流の春の所　如是

四方のうきぬ小のはしめの東の日　百花

多摩川の梅ぬれぬ人とうり　江魚

月の花く程遠き音の雁　如蝶

、

常陸田中

雪の間ぬるあるはいかに思ひます　常川

月の陰しるしるあるを見て書き時梅か　石仲　芦竹

雪の花ぬれを見いぬ梅くはしき　如柳

少の春を雪の間の青の雪　小庵　百川

梅の色の花絵の青の雪の春　春蛙

吹形いつ見るるる雪の春　小原　芳子

降らるるとおもを見るる雪の春の朧月　如小

買ふ一冊の春の事の春　武八王子　常沢

青梅の春の海の春　立甲州　素南

今年春ふかし細雨ふる一梅花　哲夫　三峯

、

打拂ふ絵の絵ふる石垣の屏
ふる風の吹ふす物干場　巾　加良金峯　桜則　斗南

、

陽炎の星いと小草のあるじ
吹きひろ雲乃高く動く春の雲　はまを　見風　金峯　畑人
すさまじく見しあの晩月　巨井文　毛正
出作屋いとあまし雲雀　冷夕　了竹

若草市女さたふる車小橋日ふる　魚洋　乙市

、

若草や節の浜ふる畑根のふる　弘馬橋　玄砂
花ふる樣ふ樣ふ樣ふき根ふ　曾川
旧長を二寸ふ花と三保の蔦雲　竹水

、

半ふ新ふ川ふ春ふ一晩月　武金川　本蔵
つの草ふまふ小のふ土乃色　宗品
吉寺ふふふふふの梅花　呂中

夢風の湖水の上を行男波　止山
さざなみ流れ岸の芦の葉　田保
梅の香の風より先へ吹き来　杉子 曽良
梅さくや関の戸開く暁の鶯　亀后
縄打て折の花瓶の梅一本　止嘯
梅さくや古寺一本枝竹　多一 枝竹

常州土浦

蓮の花の是も都の田舎色　蔚羽
小舟の穴へ流れ来る蓮の香　花孤

うらしまの舟の風の美しきを
造りすゑ置きも九き蓮の香　谷子 花言

宇治百首の輕き紀貫之の影　南枝
口の命一筋の吉野山桜の花　左菜
口の草の界しと馬のくち沼　花明
山吹の蛙折しく花の上　如仙
蓮草の的の幕引く人の夢　玉嶋
流れもくの八日影溜す蛙了る　里夕

かき昌の紙の古さの付景　其江
蕉の軒〳〵蔦雪鳥　百味
き羅〳〵とるの蒲の葉の　守暉
雪の谷の茅の一ツ家の色　白井東張
雪ふる巨燈のよる物寂ル　利根川玄中
山吹の花多湖の鷺百羽　射人
寺守さの池蛙金魚の浮上り　閑水
蛙鳴く日の山寂の鶯小寂音　紫苑
何の帝うつき鳥の花の流月　乙牛

、追加

蕉葉の一樽〳〵ふるの命毒　呂朝
蕉葉の屋根〳〵見へ春雨一日　素砂
蕉葉の休んと酒を寒さ月　三帖
蕉子の扇〳〵一面の東の色　和風
蕉葉の絵奈当の置所　無一
蕉葉の蛍〳〵岩牛ぶ　書徑

宇蕉之吟

行事所にて剪られむ所御
相小木にて木を剪る所の事の市
年 越の所の東にて大神楽
鶴亀を舞ひ解きたる年 云
帯しき色香い見つすまの梅
手の瀬を渡りて越すの鶴海老
屠蘇、袋綴ふわかるの年仕田
魚もの常い帯ふ和ふ人なる
さく花花柿下ふる者ぬ年の坂

牧牛
留玉
宗樽
芸雲
和文
芦帯
水
和雪
仙石

いさらの言九ぬを知る事云
市のふるもいの事の年云
角紀の備ふ加よりしつ迄
徐まるいいつの鮭ぬ事云
帯雲ぬ路つる牧ふ國西
小家にて初毛尾見ぬ深梯
星ふまいい千ふ義ぬ鮭梯
ふまるもまと入物を古暦
行事ふ口の帯市にて市事ふ

蘆金
仙斧
ぬ江
留南
舟ふ
小車
流楚
藤香
深山

深掃わ宮ひ会る白ら紅　五吉
年の垂わ義乃梅折る燈の雨　岡南
伺すまれと問きて宮ら岡見ま　大了
挑灯の二重明ら保垂の屋　指屋
廿年わ参河の人ま廿喜ひ　金源
幾年ら人の変ら年の暮　青妙
灯挑ら人ら手の市　金長
俳つし金を燈わ保垂の月　泉金
下ら山の鹿ら年末ま　双樹

、

深掃わ第ら源氏掃
市垂ら人の末ら垂ひ雪ら毛ま　女補
往ちふ星ら世し家宮ま　素糸
多ら能ら戸ら宮ら手の市　千代
大手の垂わ事ら成廿屋　白石
、　里臺

深手ら わ高ら神乃拥お垂
市垂ら少わ屋ら成ら世ま　松宇
　　古屋

餅つきわたしてうち捨て大廣間
日ぐれ白さ籠やうこちの花　芦帆
梅ごの梅の香色いかあり年の市　清江
折ふし梅のうれ事市あるまの暮　方壺
まの暮無門の冥土を誠かなり　素子
四ツ時の物を曙ぐ和燈ひ　春秋
年寄ふ物ハ諸人流しまの暮　山静
繁きわ淋きあ物いあるなり　徐冥
冥冥ハ諸籠屋ぐ正て冥幕ぐ　峰花
　　仙枝

年の暮ハ門へ来あまい風の音　素而
年の尾を川すぐよみき尾鯖魚　田冥
餅つきわたすぐ色鮭の暮　巴亮
月夢ふ四角の苦ぐ餅慈　尹里
二夫ふ夢ぐ神ぐわ札納　如菊

松雪の買人も昇る金屋敷
漕ぎ寄せ寄せ一掉の波
萬家の稽古もおこし手の内
以後〳〵の用を積み年の市
繰り出す序の舞松屋
日影を漏れる細〳〵手の波
手拍子〳〵を接ぎ合ひの濤
松雪の屋〳〵の賑ひ来
来年乃白ひ年の梅花

岡景
序橋
徐々
立志
江左
了良
以解
小翁
左来

風流おのゝきみわれおさめ
松雪の日暮れ赤例蒼田舎人
セリ出いい松子もおくそれ納

東枝
琴江
淮市

、

仏のそのも掃のしよわたのゝ事
坂を新す昼の体めわ事の梅
隠居をへん配ア高年の暮
拭もも屋ゆのくまさくの屋
話のもゝ夜も乃こそ高年の年

素秋
了俊
東翁
素十
魚小

春日を入用いたし候ハ古暦
海原もてのとをかゝるゝ
節季ハ有セリ以中ハ
一日ハ雪ゝ酷ゝ有ハ
吹みもゝ寄つゝ有年の市
冥土ハ雪ゝ悪しゝ有事の市
そもつまゝ有日ハ有き音ハ八百屋
海山を一年ハ有ゝ有の市
家毎ハ有ハ内ハ有事の年の夏

眉目　板倉和小
耳已
冨山
岩花
和泉
池市
春雪
花蝶

今年ハ有ハ時ハ有ハ
投ハ少ゝ見ハ八重ハ有の梅
来る人も又来る人も時ハ
ゝひすハ有ハひを花の年龍
海山を一日ハ見年の雨
夏日ハいゝ花ゝ来ハ有ハ
そもつまゝ有音ハ
遠ハ氣ハ年ハ有の坂
直ハ有ハ彩の和ハ時ハ

碧水
高山
中和
梅里
止原
昌水
子子
錦江
大路

高砂乃松ハ古シヘ年の市　　稚魚
富山ハ積テ清ヶ手の雪　　里娘
折形乃雀を寄々手寄テ手　　文魚
陽炎乃間の〻多の花　　里行
將門ハ年〻毛命〻ます手の市　　里人
節季ハ内戸を見世ハ品三人　　不及
積〻ル年乃積内毛乃毛　　蛸山
溝〻濁ル宮の手内年乃岸　　葉十
繰〻〻美ハ花を岡見ル　　南枝

題　行事

行事雇ハ古シヘ　　餅
ハ祭ひの事の有テ　　花天
行事雇ハ西雇海　　石芝
末〻美の花を人志ゝ　　千泉
行事ハ毛内夕暮乃毛ハ〻雇　　蔦
ハ中ハ源義の人毛ハ命手　　
行事ハ志ハ〻ハ貴ハ里の屋

行年の貴を都のあるまを釜
行年や笠なき旅て捨てゝ出る月　百花かし

、衣配

織留る木綿を出る衣配　板錦
待乗を裾の掃板の衣配　団扇
手伝ひの孫、年年の衣配　花明
裾ハ、寄う来の掃板の衣配　扇屋
団を捨やる四季の恵の衣配　素南
見よ二乃女伝ひやきぬ衣配　水ど文江

都うちあるを住まふ衣配　木蘭

、煙掃

毎中の寄う屋の煙ひ　京后
煙ちきわ外の鶴ちきを　暮蟬
煙ちきわ地ちう〳〵　徐杉
寄年の掃目さよ〳〵　祇中
煙ちきわいつもの野の目角人　渭南
塔煙ちを寄ふわ煙ちひ　東李
鶴ちちの〳〵明わ煙ちひ　補光

燈をかかげひとりもちたるひとり　文江
一味の色井を汲みたるひと　花英
仕事をする人の家にあるもの　泰里
夏の事の暦見物の為の燈籠　里坊
燈の日のちがひの朝涼み　淮路
燈籠日和なるのちの風の影　青郎

、古暦

日も日を重ねて来る古暦　秋雨
寄る年の法躍おどる古暦　休彩

蕃橘の日花摘きしく古暦　冥古
日花の残る日記の古ふいち　漱石
夏蕨の言日を数へる古暦　亟杉
柱のこの一日数へ古ふよ　潮花

、札納

雛の竹にかかる札おさめ　雁宇
神さびゆく梅の白の札おさめ　義郎
新しくさくらの下の札おさめ　杉叔
絵ひつきくく梅の新暦札納　呂桂

鮫口屋庄の御札おさめ　鳥園
末の檀の大社おさめ札納　如雨
以前より黒鉄おさめ札おさめ　南村
あり為なる事堀を御中札納　如園
為なれ共堀つきも札も納ず　京都

、宝丸舟

信の江戸表を懸る為　窪之
年の儀を為なる事　新仙
表様と農為なる事　柄子

長能を調市場　漕ぎ為　羽山
一瞬を事の瀬さん為　宮花
渡しをふる所の價わたの船　汲量
子為ニ一瞬つわ為ある事　華二

、餅搗

ちちを花の表ハ事ある事の四　左吉
ちつきわ粉を白くし花の屋　搗之
ちちを杵を幹を咲花屋　仙里
九しをを事庄仕屋備ちち　青信

[illegible]　乙牛
[illegible]　宝白
[illegible]　[illegible]

年市

晩鐘を[illegible]人[illegible]事の市　賀山
白雲[illegible]おりまし松[illegible]の市　長布
商人[illegible]一枚[illegible]の市　宝雅
[illegible]ふ子を一[illegible]拾[illegible]事の市　徐三
牛は[illegible]常の[illegible]事の市　留橋

[illegible]　[illegible]
人[illegible]の[illegible]かまま年の市　己井

、年[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]

ゆかしさに暗かりぬ夜の手籠　斗南
、節季候
節季候はわらぢ多く来る年の暮　蘭陵
踊りく来る年の案内か節季候　秀香
よれてし寝ぶは納の節季候　草光
節季候は古かしを何に暮急ぎ　鄰向
節季候は今宵も居る松家内　阜更
節季候は世貫ひの門を察くり　雪車
節季候は碑の内より千代足　滴雅

節季候や四五軒大に医者　渫山
、尾たらひ
何事も先を急ぐや尾たらひ　泰斎
門し乃萬歳せし尾たらひ　平樊
節季候は寒さを祭の古や尾たらひ　玉葛
口先を揉ふるわや尾たら程ひ　巻耳
尾たらひ被一ゝ色ゝ藤し老　義松
穐なき東寒演やむさる寒ひ　五嶺
、園見

家々の軒も豊かに園見の客　板丈
買物も皆々園見の連歌し　三樂
異人をとらるる亦俗おうき園見か　卓義
携帯をたたかふて重箱の園見か　竹尾
傘を出すもの女子の園見の客　星成
氏神霞石櫃登り園見か　止編

、年玄

逢々も年今年々ゆ年玄　百童
相撲すれ客亦年玄　山呂

一世ゝ白髪い見ゝ年玄　呉泉
おゝ漁い夢ゝ長ゝす年玄　春船
年玄綾ゝ明ゝ一ゝ　森徠
つゝ拾ゝ一お酒ゝ年玄　花玄
草庵ゝ一夜酒ゝ年玄　巴草

春ゝ風

霞雨まいさゝ水乃梅の蕾ゝ　止編
吹まつゝ鶯の眠ゝ東の風　巴草

18252
ヒ49
下

軸

誓文入れ見ぬ中を篠の上　門歌
梅の香を待ちつゝすまの女　鹿打
見ふさつゝ流るゝ行く末の白　尺五
白ちりつゝ梅を雪ふる事哉　祐水
何神宮おいしまつる梅のそら　孔年

きのふさゝふさゝ梅の白ひら　秋瓜